

## 第3学年 音楽科学習指導案

平成27年9月30日(水) 第5校時  
場 所 音楽室

1 題材名 曲のイメージを聴く人に伝える歌い方の工夫を考えて表現しよう

2 題材について

(1) 生徒の実態(内容を一部省略)

本学級は、合唱することを好む生徒が多い。10月に行われる合唱コンクールの曲を7月に決めると、夏休み中に音源を聴いたり、練習したりする生徒が約半数もいた。

現在、男子は変声期を終え、より豊かな低音の響きが出せるようになってきた。そして、混声合唱の響きを味わい、より深い音楽表現をしようとする生徒が増えてきている。歌い方のアイデアを伝えると、それを受けて進んで表現を工夫して歌う生徒の姿が見られる。グループで演奏する活動においては、互いを思いやり、声をかけ合いながら協力して表現していた。

本題材は合唱コンクールと関連して行うため、中学校最後の合唱コンクールを迎えるということから、意欲的に歌唱活動に取り組むことが期待される。これらの学習を通して、生涯、合唱を愛好する心情を育て、工夫して歌うことの楽しさを味わわせたい。

(2) 題材観

前題材「日本の歌の美しさを味わおう」では、教材「花」「花の街」の歌詞の内容を理解して、強弱等を工夫しながら表現する活動を行った。そこでは、曲がつくられた背景や曲に込められた思いを感じながら、曲想に合わせて歌う生徒の姿が見られた。

本題材では、聴く人に伝わる歌い方を試行錯誤し、一つの合唱をつくり上げていく活動を行う。主に学習指導要領におけるA「表現」ア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと」に関連する。その際、楽曲を形づくっている旋律、強弱、速度、調、テクスチャに着目し、それらの〔共通事項〕を工夫して合唱を行う。

(3) 指導観

生徒が主体的に曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫していくために、以下の点を指導のポイントとする。

- ① パート練習やグループ練習などの学習形態を工夫し、互いの声を聴き合って合唱する。
- ② 毎時間のめあてを明確にすること、各時間で扱う〔共通事項〕を絞ることで、生徒自身が工夫すべきポイントを自覚できるようにする。
- ③ グループの人数は3～4人とし、少なくすることで、個々の意見を出しやすくしたり、意見をもとに試して歌ったりしやすくする。その後、教師が生徒の意見を

集約し、全体の合唱に結び付ける。

### 3 研究主題との関わり

本校の研究主題  
「思考力」「判断力」「表現力」を育成する指導方法の工夫  
～主体的・協働的な学びを中心として～

この研究主題を受け、本題材では、曲にふさわしい歌唱表現を工夫する際、個人で考えた後、3～4人のグループで表現の仕方を伝え合ったり、試したりする活動（シェアタイム）を設定する。この少人数の活動で、思考を深め、主体的に合唱をつくり上げる楽しさを味わわせたい。

### 4 題材の目標

- 曲にふさわしい表現を工夫し、曲想を味わって合唱をする。

### 5 教材の選択

#### (1) 混声四部合唱曲「川」 平井多美子 作詞 石桁冬樹 作曲

ホ短調。哀愁を帯びた旋律が印象深く、大変美しい曲である。歌詞を読み解くほど「川」にまるで「人生」をなぞっているような歌詞であり、感銘を受ける。中学三年生の生徒はそのような歌詞の魅力に共感し、豊かな表現活動につなげるだろう。また、場面ごとに劇的に変化する曲想、主旋律の声部の移り変わり、ハミングなどの副次的な要素は感じ取りやすく、中学三年生のクラス合唱曲として主体的な活動が期待できる混声四部合唱曲である。

本題材では曲想を感じ取って表現を工夫していく活動が多いため、指導のポイントとなる楽曲分析を、次に記す。（□内のアルファベットは、練習番号）

- A** 女声パートが旋律を歌い始め、男声パートがハミングで応える。
- B** Aと対照的で、男声パートが主旋律を歌い、女性パートがハミングで応える。ここまではユニゾンで歌い、合唱編成は混声二部合唱である。
- C** 女声パートは、ソプラノ、アルトに分かれる。男声パートが主旋律を担当する。
- D** この曲の山に当たる部分である。男声パートは2パートに分かれる。混声四部合唱の豊かな響きを味わわせたい。
- E** **Meno mosso** 語りかけるように。速さの指定も遅くなるどころ。今までの音楽とは打って変わって、ピアノ伴奏がアルペッジョとなり、バスのハミング、アルトの主旋律が重なる。次第に、ソプラノ、テノールも加わる。
- F** **Piu mosso** 今までよりも速く。繰り返される言葉「この川の」が強調され、気持ちが高揚するところである。川を人生に例えているような場面。
- G** 最初の旋律が再び現れる。**A**との対比が美しい。**A**よりも気持ちが高まっていることを表している。

H ホ長調に転調する。高音が続くことで、飛び散る水しぶきや水面に反射する光など、想像力をかき立てるようなピアノ伴奏である。

(2) 「あとひとつ」 **FUNKY MONKEY BABYS** 作詞・作曲

高校野球応援ソングとして作曲されたものを混声三部合唱にアレンジしたもの。生徒は歌詞の内容に共感し、学年の愛唱歌として4月から歌い続けている。

6 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連及び具体の学習活動

指導事項	歌唱 ア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと」				
〔共通事項〕ア	旋律、フレーズ	強弱	速度	調	テクスチャ
学習活動	○曲想を感じ取り、旋律や伴奏の特徴を生かして、強弱や速度の歌い方を工夫する。				

7 題材の評価規準・評価計画（7時間扱い）

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ音楽表現の技能
題材の評価規準	①曲想、声部の役割や全体の響きに関心を持ち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 ②音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。 ②各声部の役割を生かし全体の響きを互いに聴き合いながら声部の役割や全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて表現している。
1	①		
2			①
3		①	
4		①	
5		②	
6			②
7	①		②

8 指導と評価の計画(7時間扱い ○は本時)

時	○学習内容・学習活動	・指導上の留意点◆具体の評価規準	[共通事項]
第1次 曲想を感じ取り、旋律やテクスチャ、調などに着目して工夫して合唱する。			
1	<p>○混声四部合唱曲「川」の曲全体の曲想を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・範唱を聴き、曲の全体の感じをつかむ。</li> <li>・学習の流れをつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱コンクールへの抱負を書かせることで本題材への主体的な取組の喚起を図る。</li> <li>・曲全体のイメージを共有することで、目指す表現の方向性を統一させておく。</li> <li>・見通しをもって活動できるよう、学習計画を常時掲示しておく。</li> <li>◆音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 (アー①活動観察、ワークシート)</li> </ul>	<p>調 旋律 フレーズ</p>
2	<p>○各パートの旋律をつかみ、思いや意図をもって歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の前半部分(練習番号[A]~[D])の音程をつかむ。</li> <li>・曲の前半部分の旋律の移り変わりに着目し、歌い方の工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各パートの音程をつかむために、パートごとに範唱CDやキーボードを用意する。</li> <li>・パートごとに練習をしたり、各パート2人ずつのグループごとに合わせたりし、それを繰り返し行わせることで、各自の音程を確かなものにしていく。</li> <li>・主旋律のパートの移り変わり(女声パート→男声パート)と音色の移り変わりに意識するよう助言する。</li> <li>・ユニゾンから始まり、混声三部合唱、混声四部合唱の響きの移り変わりにも着目していくよう声を掛ける。</li> <li>◆歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。(ウー①活動観察、ワークシート)</li> </ul>	<p>旋律 フレーズ 強弱 テクスチャ</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習番号[E]の音程をつかみ、テクスチャに着目して歌い方を工夫する。</li> <li>・各自の考えを持ち寄り、3、4人のグループで話合ったり、歌ったりする。</li> <li>・曲の後半部分(練習番号[F]~[G])の音程をつかみ旋律やテクスチャに</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉で伝え合ったことを歌い、試すようにさせ、思考を深めていく。</li> <li>◆音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(イー①活動観察、ワークシート)</li> <li>・曲想にふさわしい表現の工夫が考えられるよう、[A]と[G]のテクスチャの対比に着目させる。</li> </ul>	<p>旋律 テクスチャ 強弱 速度</p>
④			

5	<p>着目して歌い方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の考えを持ち寄り、3、4人のグループで話合ったり、歌ったりする。</li> <li>・クラス全体で表現を工夫する。</li> <li>・練習番号Hの音程をつかみ、調に着目して歌い方を工夫する。</li> <li>・各自の考えを持ち寄り、3、4人のグループで話合ったり、歌ったりする。</li> <li>・クラス全体で表現を工夫する。</li> </ul>	<p>◆音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(イー①活動観察、ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想にふさわしい表現の仕方が考えられるよう、Hの転調に着目させる。</li> <li>・ホ短調からホ長調に転調することで、気持ちはどう変わるか、どんな意図をもって歌えばよいか、そのための歌い方をどのように工夫したらよいか、助言する。</li> <li>・今まで学習してきた工夫のポイントが表現に結び付くよう、クラスでまとめた歌い方の工夫を拡大楽譜に記していく。</li> </ul> <p>◆音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(イー②活動観察、ワークシート)</p>	<p>旋律 テクスチャ 強弱 速度</p> <p>旋律 調</p>
第2次 曲全体の構成を生かして、合唱をつくり上げる。			
6 7	<p>○曲全体の構成を生かして合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部分的につくり上げてきたものをつなげ、合唱の練習をする。</li> </ul> <p>○学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの学習が端的に振り返られるよう、拡大楽譜を活用する。</li> <li>・学習を通して高まった歌唱表現を整理し、合唱コンクールに向けての意欲付けを図る。</li> </ul> <p>◆曲想に関心を持ち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。(アー①活動観察、ワークシート)</p> <p>◆各声部の役割を生かし全体の響きを互いに聴き合いながら声部の役割や全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて表現している。(ウー②活動観察)</p>	<p>旋律 フレーズ 調 速度 テクスチャ</p>

9 本時の学習指導 (本時 4 / 7 時)

(1) 目標

歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、思いや意図をもって合唱する。

(2) 学習の展開

学習内容と主な学習活動 (・)	○教師の働きかけ ◆評価規準(評価方法)
<p>1 学習の雰囲気づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肩たたき</li> <li>・ 学年の愛唱歌「あとひとつ」を合唱する。</li> </ul> <p>2 本時のめあてを知り、学習の見通しをもつ。</p>	<p>○ リラックスした気持ちで伸び伸びと表現できるように、生徒同士のかかわりの中で雰囲気づくりをする。</p> <p>○ 本時の目標に結び付く「曲想」「表現の工夫」に着目し、歌詞の内容が聴く相手に伝わるような合唱となるよう助言する。</p> <p>○ 学習の流れを板書し、学習段階が明確になるように支援する。</p>
<p>練習番号 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">F</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">G</span> の音程をつかみ、曲想を感じ取り、表現を工夫しよう</p>	
<p>3 音程をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 姿勢、音程、リズムに気を付けて歌う。</li> </ul> <p>4 表現の工夫を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各パート 3～4 人グループで、個々の意見を交換する。</li> <li>・ 意見をもとに歌ってみて、表現の工夫を検討する。</li> <li>・ クラス全体で表現を工夫する。</li> </ul>	<p>○ パートリーダーを中心に、CDやキーボードを使って活動を行うよう、場を整える。</p> <p>○ 音程をつかむのに苦慮しているパートの支援をする。</p> <p>○ 各自の楽譜に、工夫したいポイントを記入させ、曲に対する思いを言語化する時間を確保する。</p> <p>○ 根拠をもとに表現の工夫が意見交換されるよう助言する。</p> <p>○ 「歌う→考える→歌う」活動を行うことで、試行錯誤しながら表現が深められるようにさせる。</p> <p>○ 各自の意見をリーダーが集約して付箋に記入し、拡大楽譜に貼ることで、グループの意見がクラス全体に広がるようにする。</p> <p>○ 各グループの意見をもとに、クラスで統一した歌い方にまとめていけるよう指導する。</p> <p>○ 意見がまとまらないときは、根拠を楽譜の中から見つけるようアドバイスする。</p>
<p>5 表現の工夫を生かして合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自の思いや意図を合唱表現に結び付ける。</li> </ul>	<p>○ 曲想にふさわしい表現の工夫が考えられるよう、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</span>と<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">G</span>のテクスチャの対比に着目させる。</p> <p>○ 抽象的なイメージや音楽表現は、具体的な言葉で補足し、表現意図を共有させながら合唱にまとめていく。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現の工夫が、聴く人に伝わるように歌えているか、確かめ合いながら合唱する。</li> </ul> <p>6 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「合唱取り組みカード」への記入をし、本時の学習を振り返る。</li> <li>・ 学習段階を確認し、次時の学習活動の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習内容を、キーワードを使ってまとめさせる。(旋律の動き、テクスチャ、強弱・速度の変化)</li> <li>○ 本時の学習活動を称賛し、次時への意欲の喚起を図る。</li> </ul> <p>◆ 題材の評価規準</p> <p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(イー①活動観察)</p>
---	--